



皇大神宮第二鳥居

11月21日午後1時、岐阜グランドホテルにおいて(財)伊勢神宮式年遷宮奉賛会岐阜県本部設立総会が開催され、県内の産業界などから約160人が出席しました。

議事では、規約や募財計画、役員などが諮られ、本部長には小島伸夫県商工会議所連合会長が就任しました。

式年遷宮は、20年ごとにわが国を代表する最高の技術者によって、日本古来の伝統的な建築様式や御装束神宝の伝統工芸技術が継承される極めて文化的・技術的にも意義高い行事です。今回は戦後4度目であり、これまで全国の産業界・経済界において募財活動に協力してきました。

第62回

伊勢神宮式年遷宮

20年ごとに受け継がれる古代の技

式年遷宮とは

「遷宮」とは新しいお宮を造替し、御装束・神宝も新しくして大御神にお遷りを願う大祭で、「式年」とは定め年という意味です。20年に一度とすることは今から1300年前に第40代天武天皇がお定めになりました。次の持統天皇4年(690年)に第1回式年遷宮が行われて以来、戦国時代に一時中断がありましたが、伝統を守って20年毎に繰り返され、戦後は昭和28年、48年、平成5年の3度斎行されました。そして、いよいよ第62回目が平成25年(2013年)秋に執り行われます。

20年という期間は、一つの区切りの年でもあります。掘立柱に萱の屋根という素木造の社殿の尊厳さを保つためにも20年が最もふさわしく、また伝統技術を継承するために合理的な年数です。広く国民がお参りする神宮は常に新しく、みずみずしくあつて欲しいという願いと、昔から永い年月受け継がれた技法を、そのまま次の世代へ伝えて行きたいということから20年という年限が定められたのではないのでしょうか。

なお式年遷宮では、内宮・外宮のほか14の別宮も新しく造り替えられます。

式年遷宮の文化的意義は

1300年以上もの昔から、伝統と文化が正しく伝承されているということ、ここに御遷宮の大きな意義があると思います。遷宮といえはご社殿のご造営だけと考えられがちですが、式年遷宮では約800種、1600点の御装束・神宝も古式にしたがい新しく作りお供えします。

「御装束」とは衣服や服飾品、御神座や社殿の装飾、遷御の儀に用いる品々を総称します。「御神宝」とは御用に供する調度品で紡績具、武器、馬具、楽器、文具、日用品に大別されます。

瑠璃、水晶などがちりばめられ、きらびやかに輝く御太刀、奈良時代の様式を伝える木彫の神馬、白銅の御鏡、金銅の機織り道具、錦綾や生絹等の絹織物の御衣などは、平安時代の「儀式帳」にしたがつて当代最高の美術工芸技術者によって作られ、古代の文化と技術を今に伝えていきます。



川原大祓

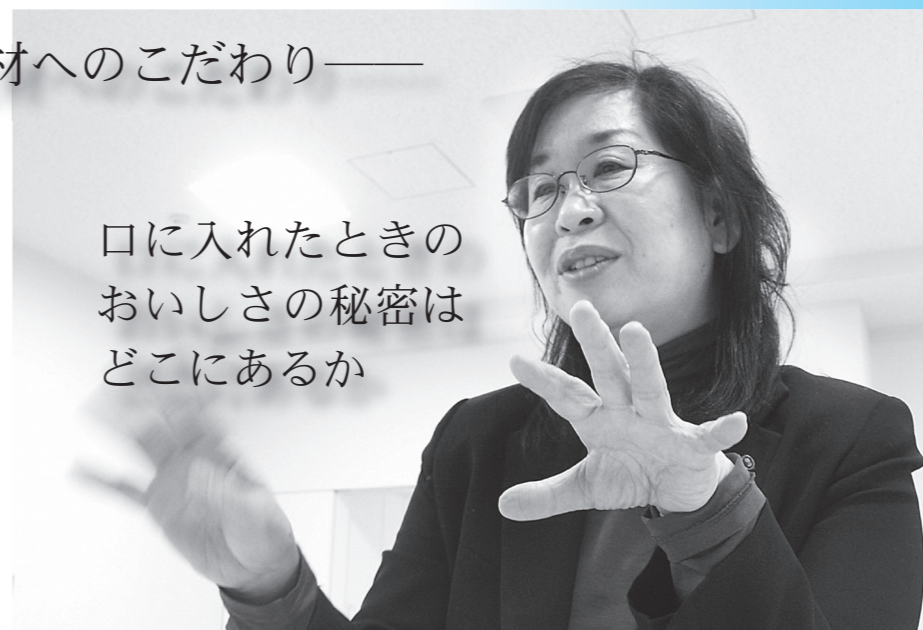
伝統と文化を正しく伝承する

『財団法人伊勢神宮式年遷宮奉賛会募金趣意書』より抜粋

写真/神宮司庁

研究室を訪ねて

本コーナーは、岐阜市近郊の大学研究者を中心に自身のエピソードや岐阜への思いを語っていただくとともに、連携できる内容を紹介し、読者との橋渡しを目指しています。



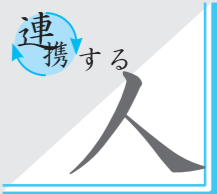
食材へのこだわり——

口に入れたときのおいしさの秘密はどこにあるか

Noriko Ogawa

岐阜女子大学家政学部 健康栄養学科学科長
食文化開発支援センター所長 教授

おがわ のりこ
小川 宣子氏



三重県生まれ。お茶の水女子大学において、果汁のオフフレーバー（本来の果汁の香りにはあつてはならないとされる香り）に関する研究に取り組む。その後、岐阜女子大学（家政学部家政学科）に勤め、調理科学と栄養学を専門に、主に卵の研究に携わる。

食材に複合されている成分を活かすことが重要であり、その栄養的、生理的価値を損なわない調理加工方法を見つけ、「おいしく」食べられる料理を提供すること、特に消費者の口に入ることを意識した研究をしている。

卵については、栄養バランスや調理方法はもちろん、食材としてふさわしい卵の特性（ぎめ細やかさ、とろみ等）を高めることを目的に鶏の飼料の成分分析や、卵のコレステロールやアレルギーなどの問題点など、卵の産卵から調理加工まで一貫した研究やコンサルティングができる日本でただ一人の研究者である。

また、健康栄養学科に蓄積された研究成果や専門知識の地域還元を目指し、食文化開発支援センター（*1）所長として学生とともに産学連携に積極的に取り組み、企業からの食に関する相談業務を多数手がけている。

そのほか、東海農政局東海地域食育推進協議会座長など数多くの公職をこなしながら、NHK「ためしてガッテン」などテレビにも多数出演。著書には『卵の科学』動物タンパク食品』などがある。

研究テーマ

- (1) 食品たんぱく質（卵・大豆）の特性及び機能に関する研究
- (2) 米の調理・加工特性に関する研究
- (3) 海藻の特性と機能に関する研究
- (4) 幼児期における食物栄養教育に関する研究

連携実績

- (1) 卵の鮮度を活かしたおいしいマヨネーズの開発（味の素㈱）
- (2) 卵の特性の高度化を目的とした鶏の餌の成分に関する研究（全国農業協同組合連合会）
- (3) 栄養バランスを考えたおいしい大豆料理の研究及び提案（㈱くすむら）



（*1）食文化開発支援センターって何ぞいなの？

将来、管理栄養士（厚生労働大臣の認可を受けて、高度な健康保持・増進のための専門的かつ臨床的な栄養指導や給食管理などに携わる資格）を目指す学生のキャリア開発と地域の食文化の発展に寄与することを目的に、2006年4月設立。研究者ごとに行っていた食に関する相談を一括して受けることで、蓄積された食文化に関するデータを活用し、研究室という枠組にとらわれることなく学生も参加して共同・委託研究やコンサルティング

ができることが最大の特徴。地域の食文化の発展に寄与する取り組みとして、食事バランスガイドを活用し、学童期・成人期・高齢期などの年齢層に合わせた地域特産物を考慮した栄養教育を地域に Outreach 実施している。そのほか、幼児に対する保育園での食育をはじめ、妊婦や幼児をもつ保護者を対象に離乳食と幼児食の重要性や作り方を教えるセミナーなども実施している。

本センターへの相談・お問い合わせは frs@gi.jodai.ac.jp まで。

編集者より

食文化開発支援センターは、産学連携を積極的に推進する機関としてだけでなく、学生が社会との接点を持つことができるため、インタラクティブな教育の機会としても機能していると言え、企業・大学ともにメリットある機関だといえます。今後の発展を期待しています。

また、小川先生から年末年始で疲れた体を癒す卵料理として、わかめのお味噌汁に卵を割ってきざみネギをいれるといいとお聞きしました。一度、試してみてもどうでしょうか。

- 岐阜市役所新産業創出支援室
編集者 鶴見
Tel:058-265-4141
(内線 6136)
- 岐阜女子大学家政学部
健康栄養学科
学科長・教授 小川宣子
Tel:058-229-2211 (代表)





Business interview

「カメラはずっと好きですね。つい先日これ（デジカメ）を持ってベトナムへ行きましたよ」

あらゆるビジネスシーンで活躍中の会員の皆様をご紹介します。

ラジオ・テレビを人々へ

「東京へ出た時は、まだ少年でした」
志願兵として当時の陸軍航空廠から陸軍兵器学校に入隊。そこで電気技術について学び、戦地へ。最前線にて最新兵器を動かす電気機器に携わる作業に従事しました。
そして、終戦。焼け野原、何もない岐阜へ戻ってきた細川さんは「自分にできることはラジオの音で人々を元気づけること」と、技術を活かし鉱石ラジオをいくつもいくつも組み立てました。「出来上がるのを待っていてくれる人が山ほどいました」。昭和23年、細川ラジオ電器店開業。当時は、ゆっくるところ振り返ります。

生涯現役、です

株式会社 細川電器
代表取締役社長

細川 鉦太郎 さん

その後、時代はテレビへと。すると細川さん、今度はどこの誰よりいち早くテレビを組み立てました。「町内中の人が集まってきたね」。お目当ては、テレビに映る

力道山。この頃、社名からラジオをはずし、細川電器と改めました。そして「次は何か？」と期待する人達の前に、細川さんが登場させたのは、もちろん、カラーテレビ。「電気製品の目覚ましい発展には、私自身がいちばんびつくりしていました」。新しいものにチャレンジできることが何より楽しく、充実感に溢れる毎日でした。

量販店と同じサービスでは駄目

細川電器を取り巻く環境は、量販店の進出などにより次第に変化。そのなかで「うちは商品を売るだけではなく『便利』を売っています」細川さんはその姿勢を貫きます。お客様がかゆいところに手が届くおかげで電器屋でありたい。「うちみたいな店を一件抱えたほうが便利、と思っていただけられるよう、皆で心して努めています」。それはまさに「誠心誠意」。その姿勢が地域の生き残り、と細川さんは熱く



「うちは、一次対応を断ったことはありません。呼ばれたら必ず応える、これが社長の教え。全員で実行しています。」

語ります。そして、「電化製品はまだまだ、変わりますよ」と。現在は、安全・清潔にこだわり、環境にやさしい熱源、オール電化に鋭意取り組みます。また、「自らが商品を知り理解せねば」と、高度なパソコン技術も教室に通ってほとんどマスターしました。細川さんの辞書に苦手、できないという言葉はありません。
ラジオから手掛け始めた「町の電器博士」は、現在82歳。まだまだ「チャレンジ」の途中です。

Company Data

株式会社細川電器

代表者 代表取締役社長 細川鉦太郎
創業 昭和23年
(本部) 岐阜市安良田町3丁目1-4
TEL(058)-265-3100
FAX(058)-263-2611
事業内容 電気器具小売販売業
従業員 5名
(新店舗) 岐阜市細畑4丁目10-4
TEL(058)-247-4455
FAX(058)-247-4488

